

平成30年度第1回光市総合教育会議 会議録

1 開催日時

平成31年1月30日（水）午後3時00分～午後4時00分

2 開催場所

光市教育委員会1階ホール

3 出席者

（1）構成員

光市長 市川 熙

光市教育委員会	教 育 長	能美 龍文
〃	教育委員	河村 博明
〃	教育委員	寺崎 益朗
〃	教育委員	中西 かおり
〃	教育委員	平岡 いづみ

（2）説明員

光市立島田中学校	校 長	佐伯 肇一郎
光市立島田小学校	校 長	小川 寛
光市立上島田小学校	校 長	小幡 治生
光市立三井小学校	校 長	湊谷 道彦
光市立周防小学校	校 長	川原 修

（3）関係者

中村教育部長、太田教育総務課長、和田学校教育課長、河本学校教育課主幹、原田文化・社会教育課長兼人権教育課長、村崎体育課長、穂山図書館長、清水学校給食センター所長、影土井教育総務課経理係長、村上教育開発研究所主任研究員、永光教育企画担当（学校教育課）

4 聴講者

- （1）光市地域学校協働活動推進員 5名
- （2）小中学校 学校運営協議会会長 12名

5 傍聴者

2名

6 次 第

開 会

(1) 市長あいさつ

(2) 議 事

ア 光市が進める「小中一貫教育」について

イ その他

閉 会

7 議事録（要旨）

開 会

(1) 市長あいさつ

総合教育会議では、平成27年度より本市教育の在り方や進むべき方向性について、教育委員の皆様とともに語り合いを重ねてきた。本日の会議には、島田中学校区より5名の校長先生にご出席をいただき、本市が目指す小中一貫教育について学校現場の視点からご意見をいただきたいと考えている。また、本日は、光市地域学校協働活動推進員及び学校運営協議会会长の皆様にも本会議をご聴講いただきたいと改めてよろしくお願いしたい。

平成29年3月に告示された新学習指導要領に伴う新たな教育課程については、平成32年度より小学校、平成33年度より中学校での開始に向けた諸準備が進められている。

今の子どもたちが日本の経済活動に参加する2030年代には、AI（人工知能）が急速に発達した社会、また、これまで以上に情報や物事がインターネット等で取引される仮想空間と現実社会が融合した「超スマート社会（Society5.0）」の到来が予測されている。

国立教育政策研究所は、こうした新たな社会を生き抜くうえで必要とされる「21世紀型能力」の育成について提唱している。「21世紀型能力」とは、「基礎力」「思考力」「実践力」の観点から整理された日本型の資質・能力の枠組みであり、問題解決能力や批判的思考力、情報活用能力等これまでの「生きる力」の実践とともに、加速度的に変化する社会に必要とされる能力の育成である。

私たちは、本市が進める小中一貫教育を通じて、こうした能力の育成とともに、変化の激しい社会にも十分に対応できる教育の提供を目指す必要があると考えている。

本日は、教育委員の皆様をはじめ校長先生方より、率直なご意見とご提言をよろしくお願ひしたい。

(2) 議 事

ア 光市が進める「小中一貫教育」について

(説明者)

資料を用いて、河本学校教育課主幹、小川校長（光市立島田小学校）より説明。

【質疑・意見等】

(説明員)

島田中学校区は4小学校1中学校の5校であり、小中学校を一つの校区と捉え、地域にある4つのコミュニティセンターとともに連携を深めていくことが重要である。先程の説明のとおり、まずは各小中学校の教職員同士の繋がりが肝要であり、学校の垣根を超えたつながりを大事にしなければならない。そのためには、各学校と地域が同じ方向性をもってさまざまな事業に取り組んでいく必要がある。島田中学校区では新たに小中連携推進部会を立ち上げ、これまでの学校運営協議会との連携のもとに課題の解決に取り組んでいる。

さらには、地域とのつながりをより深めるため「島田川協育ネット」を立ち上げ、こうした取組みが今後的小中一貫教育の大きな基盤になるものと期待している。また、こうした取組みは、地域や教職員など大人中心の活動となるのではなく、子どもたちの意見や思いも十分反映されることが大切だと考えている。

(説明員)

島田中学校区における小学校の児童相互の交流については、学年ごとに活発に行われている。昨年度、ある小学校で宿泊学習があり、その宿泊学習に本校からも参加したいと考えていた。こうした大規模校の活動に小規模校からの児童が入っていくことへの不安もあったが、実際に行ってみてその不安は一気に解消された。こうした取組みは児童にとって非常に意味があり有意義な活動となったことから、今後は島田中学校区の4つの小学校で実施することも検討している。

さらには、6学年で実施している修学旅行については、翌年時には島田中学校に児童が入学することを見据え、合同で実施することも視野に入れながら、将来的な取組みについて検討していきたい。また、こうした合同学習等を通じて、本市が進める小中一貫教育に向けた基盤を整えていきたいと考えている。

(説明員)

中学生がそれぞれの小学校を訪問し、生徒が児童に勉強を丁寧に教えたり、多くの質問や疑問に答えるなど、生徒が率先して児童の手助けを行う姿を見ながら、小学生は中学生に憧

れを抱くようになる。このように生徒と児童が交流することでお互いを気に掛け、思いやりをもって接するなど、こうした取組みも小中学校のスムーズな連携につながっていると考えている。

(説明員)

学校教育を支えるPTA活動や地域の活動は、全ての小中学校で活発に行われている。PTA活動では、球技大会等でつながりを深めており、保護者同士もこうした活動を通じて小中一貫教育への理解を深めていければと考えている。また、地域にはそれぞれの伝統的な行事が根付いている。こうした地域の行事等に児童生徒が積極的に参加して地域の方と交流を深めることは、伝統行事や伝統文化の保存、継承の一躍を担うものと考えている。

(構成員)

小中一貫教育に向けたそれぞれの取組みや活動を紹介いただき、特に「島田川協育ネット」の取組みは、小中学校の連携をより深める素晴らしい取組みであると理解できた。また、こうした取り組みは地域の方々の協力や支援によって成り立っていることも改めて理解することができた。今後とも、それぞれの学校という枠を超えた学びや活動を継続していただきたい。

(説明員)

「島田川協育ネット」のテーマである「地域とつながり、感謝や思いやりのある島田川っ子」の育成を目指すなかで、5校の小中学校の児童生徒の代表者が集まって話し合いを行う「島田川サミット」を開催している。この話し合いには各校の教職員も一緒に参加し、課題の解決や目指すべき方向性について熟議を重ねている。こうした子どもたちの発想やアイデアを様々な取組みに生かしていきたいと考えている。

(構成員)

小中学校の連携については、各校の児童生徒をはじめ教職員、地域の方々の想いや考え方を理解したうえで進めていく必要がある。そのためには地域の方々にも積極的に教育活動に参加していただき、また子どもたちや教職員も地域に出向き、奉仕活動や地域行事等にも参加しながら、地域の方とのふれあいを大切にしていただきたい。

(構成員)

小学校における外国語の授業について、中学校の英語教諭が小学校を訪問して授業を行う交流をしているが、子どもたちの反応はどうか。

(説明員)

学校によって違いはあると思うが、現状では3週間に1回程度の交流である。中学校の先生ということもあり、子どもたちには若干の緊張感はあるものの、普段とは違う視点の話や授業展開に楽しく外国語学習に取り組んでいる。

イ その他

その他の事項等なし

午後4時00分終了